（様式２）

# 令和４年度　学校経営報告（学校評価報告書）

四條畷市立田原小学校
校　長　　上井　大介

## １　学校経営方針

〇令和４年１月に策定の**「四條畷市教育振興基本計画」の基本理念は「みんなの学びが叶うまち　～生涯学び　夢　挑戦　～」**とされており、「予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもからおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要」と示されている。この基本理念の実現に向けて、学校においては、今を生きる子どもたちの未来を見据え、**「学び方を学ばせる」、「学ぶ力や学ぶ意欲、学ぶ楽しさを体感させ、身に付けさせる」**ことがミッションであると考えている。

〇それらを踏まえて、学校教育目標は、実態に照らし昨年度と少し変えて、**「自主的につながり、表現し、主体的に取り組むことのできる子ども」**の育成とする。授業等の学校教育活動のなか、あらゆる場面において、子どもたちが自ら仲間や関係する大人たちとつながり、その過程のなかで自らが表現したり、主体的に取り組んだりする姿をめざす。

〇令和４年度の学校の活動テーマは**「つながり」**を継続する。子ども同士はもとより、教職員間、教職員と保護者、学校と地域など様々な関係において「つながり」を意識した取組みを推進していく。

〇活動テーマの実現に向けたキーワードとして、**「あいさつ」、「共感と安心感」、「感謝」、「チャレンジ」、「家庭・地域とのつながり」**の５つを継続して掲げる。校内教育実践の取組みのなか、具体的に５つのキーワードを常に意識した取組みを進めていく。児童には適宜、「あいさつができる子」「やさしい子」「チャレンジする子」を意識させる仕掛けを行う。

〇昨年度同様に学校スローガンを**「認め合い、支え合い、助け合い」**を掲げるとともに、今年度は**合言葉として、「ありがとう」と「大丈夫」**を掲げたいと思う。人は一人で生きてはいけない。周囲の人に支えられ、励まされ、時に迷惑をかけながら生活する。そのうえで、他者との関わりやつながりは不可欠なものであるが、まずは自己肯定感などを育むべく、子どもたちや教職員自身が安心感や自信が持てる環境・雰囲気につなげるために、「ありがとう」や「大丈夫」が溢れる学校作りに努めたい。

以上、自身も他者もともに成長できる学校を創造するとともに、そのような子どもたちの育成に関わる教職員、保護者、地域方々にも、これら方針のもと、取り組める仕掛けづくりを進めていく。

## ２　めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

| | |
|---|---|
| **★めざす学校像** | みんなが笑顔で、温かく、思いやりにあふれた学校 |
| **★めざす子ども像** | ①自分の思いを表現できる子<br>②たくさんの仲間と関わろうとする子<br>③何事にもチャレンジできる子 |
| **★めざす教師像** | 熟成された人権感覚を持ち、認め合い、支え合い、助け合いながら教育実践を行い、常に学び続ける教師 |

（様式２）

## ３　学校の現状（よさと課題）

**（１）子どもたちの実態**

あいさつがしっかりできるなど素直な子どもが多く、やるべきことはしっかりと取り組める。また、昨年度末の反省では、子どもたちに少しずつチャレンジする意識が出てくるなど、学校や家庭、地域での取組みの成果が徐々にみられるようになってきた。その一方で、子どもが安心しきれていなかったり、自信のなさが見受けられたり、関係のある大人や友だちとはあいさつや関わりが持てるが、自ら積極的に表現したり関わろうとしたりすることについては、依然として課題が見られる。

**（２）子どもたちを取り巻く環境**

①教育環境

１小１中の校区であり、小中学校の連携した取組みは進めやすいが、子どもたちの集団や関係性は膠着しやすく変化が乏しくなってしまう恐れがある。また、子どもたちの成長に向けて任せてもよい、任せた方が成長につながると感じるところに大人の介入がその成長の停滞要因と感じるところもある。

②地域

学校教育及び子どもの教育全般に概ね協力的であり、子どもに対する働きかけも積極的である。反面、地域や保護者間のつながりにおいて二極化を感じる。また、教育や学校、子どもの成長に対する期待が大きく、それが故に、あらゆる事象に対する反応や答えを急がれたり、白黒をはっきりと求められたりする傾向にあることを感じる。そのことにより、子どもたちが受身になってしまうようにも感じる。

③組織（教職員、PTA、保護者）

教職員はまじめで子どもや保護者に対して、寄り添い、熱心に取り組める。一方で、やや形にとらわれたり、ルールで縛りがちになってしまったりする傾向が見られる。

また、ＰＴＡは学校運営や学校行事等に関し、理解を示していただいており、常に役員会等において、情報共有しながら、進めることができる素地がある。

保護者も子育てについて、まじめで一生懸命であるが、「こうあるべき」という考えを持つ傾向が見られる。近年は保護者の多忙な実態やつながりの欠如も相まって、子育てに悩まれるなか、外部機関につながる家庭が増える傾向にある。

## ４　今年度の達成目標、具体的な方策

**目標設定区分１　『学校経営』**

| Ａ　今年度の成果目標 | 達成基準（各種調査、アンケート等） |
|---|---|
| 教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの実現等を主眼に置いた学習指導要領の確実な実施に向け、「確かな学び」の定着を図るとともに「生きる力」を育む指導を行う。<br>①当面続くであろうコロナ禍においても、子どもの安心・安全の確保を最優先に置いた学校運営に努める。人権意識を高め、あいさつなど他者との関わりを通して「つながり」を意識し、自己肯定感や自己有用感の醸成を図る。 | ①学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート<br>Ａ（児）「あいさつすることや相手を思いやることをがんばっている」（R3/84%）<br>Ｂ（保）「学校は、子どもの人権を尊重した指導を行っている」（R3/84%）<br>Ｃ（児）「先生は、いじめは絶対にいけないと教えてくれていると思う」（R3/90%）<br>Ｄ（教）「いじめについて情報収集や対応及び未然防止など適切に取り組んでいる」（R2/96%）<br>Ｅ（児）「自分が苦手なことやできないことにもチャレンジするようにがんばっている（R3/76%） |

（様式２）

| | |
|---|---|
| ②国語科、今年度もとりわけ「読むこと」領域に主眼を置いた校内研究を行う。また、読書活動の推進も継続を図る。併せて、国語科で身につけた力を他教科でも生かせるよう、発表や交流、意見交換等を行う場の設定を意識する。<br>③タブレットＰＣを活用した授業を推進し、取組み実践の共有やミニ研修等、教員のスキルアップを図り、授業改善をめざす。<br>④課題のある理科については、今年度配置のあった小学校専科加配を活用して、底上げを図りたい。昨年度同様、まずは自然現象や科学事象に興味や疑問を持たせ、実験や観察等、検証を経て解決する過程の楽しさを体感させることから課題改善を図る。<br>⑤「体力づくりアクションプラン」に基づき、児童の体力向上に資する取組みを充実させるとともに、自分のみならず家族や他者の命や健康を大切にする意識を育む。 | Ｆ（全国学調児）「自分にはよいところがあると思う」（R3/75%）<br>Ｇ（全国学調児）「人の役に立つ人間になりたいと思う」　（R3/99%）<br>Ｈ（全国学調児）「将来の夢や目標を持っている」（R3/79%）<br>②学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート<br>Ａ（保）「先生はわかりやすい授業をしている」（R3/88%）<br>Ｂ（児）「国語の授業はわかりやすいですか」（R3/89%）<br>Ｃ（児）「自分の発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫していた」（R3/75%）<br>Ｄ（児）「話し合う活動では、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたか」（R3/86%）<br>Ｅ（教）「言語活動を適切に位置づけましたか」（R3/90%）<br>Ｆ（児）「読書は好きですか」（R3/80%）<br>Ｇ　全国学力・学習状況調査（全国学調）<br>Ｈ　標準学力検査（ＮＲＴ）<br>③学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート<br>Ａ（保）（児）（教）「タブレットＰＣ等ＩＣＴ機器を活用した授業」に関する質問（R3/保 79%、児 86%、教 92%）<br>④学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート<br>Ａ（児）「あなたは自然や科学のことが好きですか」（R3/87%）<br>Ｂ（児）「理科の学習は日常の生活のなかで役立つと思いますか」（R3/92%）<br>Ｃ（児）「理科の学習は好きですか」（R3/85%）<br>Ｄ　標準学力検査（ＮＲＴ）<br>⑤学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート<br>Ａ（児）「運動するのは好きですか」（R3/80%）<br>Ｂ　全国体力・運動能力、運動習慣等調査 |

**Ｂ　目標実現に向けた取組み**

| 項目 | 達成基準 | 結果 | 評価 |
|---|---|---|---|
| ①人権意識、自己肯定感、自己有用感の醸成 | ①Ａ　85%以上<br>①Ｂ　85%以上<br>①Ｃ　90%以上<br>①Ｄ　95%以上<br>①Ｅ　80%以上<br>①Ｆ　80%以上<br>①Ｇ　80%以上<br>①Ｈ　95%以上<br>※肯定回答 | ①Ａ　83%△<br>①Ｂ　87%〇<br>①Ｃ　86%△<br>①Ｄ 100%〇<br>①Ｅ　77%△<br>①Ｆ　76%△<br>①Ｇ　98%〇<br>①Ｈ　83%△<br>※肯定回答 | 人権や教員のいじめに関する取組み、児童の自己肯定感の一部項目で達成できたものの、全体としては達成には至っていない。<br>あいさつ運動など、本校では今年度もあいさつに関する取組みを行ってきたが、次年度は方法やいかに児童の日常生活に定着させるかを考える必要性を感じている。<br>その他、児童から見た教師のいじめに係る指導のあり方や、児童のチャレンジする気持ちの向上などについても、この結果を踏まえて、意識新たに取り組んでいきたい。<br>教職員には引き続き、校長通信「ＴＥＡＭ★ |

（様式２）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 田原小」発行を継続し、人権意識、指導力の向上につながる内容等の共有を図っていく。 |
| ②国語科を中心にした校内研究 | ②Ａ　88%以上<br>②Ｂ　90%以上<br>②Ｃ　75%以上<br>②Ｄ　85%以上<br>②Ｅ　90%以上<br>②Ｆ　80%以上<br>②Ｇ　全国平均１<br>②Ｈ　全国平均 50<br>※肯定回答 | ②Ａ　90%〇<br>②Ｂ　82%△<br>②Ｃ　69%△<br>②Ｄ　80%△<br>②Ｅ　94%〇<br>②Ｆ　80%〇<br>②Ｇ　0.979△<br>②Ｈ　49.2△<br>※肯定回答 | 達成には至っていない。<br>今年度は全国学調、標準学力検査（ＮＲＴ）ともに全国平均を下回る結果となった。<br>校内研修は各学期１回ずつ計３回実施できた。それぞれの研究授業では大変良い学びができたが、今後はそれらを日常の授業にいかに反映させていくかが課題である。<br>児童の読書に対する意識は依然として８０％を維持している。今後さらに向上するよう取組みを進めたい。 |
| ③タブレットＰＣ等ＩＣＴ機器を活用した授業実践の推進 | ③Ａ保 80%以上<br>児 85%以上<br>教 90%以上<br>※肯定回答 | ③Ａ保　79%△<br>児　83%△<br>教　86%△<br>※肯定回答 | 達成には至らなかった。<br>授業観察などの様子からはタブレットＰＣを活用した授業や取組みは昨年度より進んだと認識しているが、保護者や児童の捉えはわずかながら目標値に到達しなかった。教員のタブレットＰＣ活用スキルは確実に上がっており、市教委が進めるＳＡＭＲモデルの段階を意識しながら、引き続き、取組みを進めていく。 |
| ④理科教育の充実 | ④Ａ　85%以上<br>④Ｂ　90%以上<br>④Ｃ　85%以上<br>④Ｄ　全国平均 50<br>※肯定回答 | ④Ａ　88%〇<br>④Ｂ　93%〇<br>④Ｃ　80%△<br>④Ｄ　47.2△<br>※肯定回答 | 達成には至っていない。<br>標準学力検査（ＮＲＴ）の結果も全国とは乖離がある。自然や科学に興味を持つ児童の育成に向けて、週１回のオンライン集会での自然科学等に関する校長講話を継続した。担任の話では、今年度も集会後にまねて実験する姿が見られたと聞く。アンケートの結果では理科を専科や交換授業している学年は高い評価となる傾向がでている。 |
| ⑤体力向上等健康教育の推進 | ⑤Ａ　80%以上<br>⑤Ｂ　全国平均 50 －１ポイント<br>※肯定回答 | ⑤Ａ　82%〇<br>⑤Ｂ<br>男子　48.5△<br>女子　48.4△<br>※全国 50-1 | 達成には至っていない。<br>今年度も体力向上の取組みとして、児童の体育委員会が、「おにごっこ」遊びを展開した。一時的には子どもたちは大いに楽しんでいたが、ブームとまでは至らなかった。<br>その他、講師を招いてサッカーの学習を通して体育の授業のあり方に関する研修を実施。児童だれもが楽しく運動量の確保ができる取組みを学んだ。 |

**目標設定区分２　『学校組織の運営』**

（様式２）

| Ａ　今年度の成果目標 | 達成基準（各種調査、アンケート等） |
|---|---|
| 教職員一人ひとりが明確なミッションのもと、やりがいと創造力をもって担当に当たれるよう適材適所を意識した学校組織体制を構築とともに、質の高い学校運営をめざす。<br>①管理職、教務主任、各部長、（学年主任）等による学校運営委員会を効率的に開催するとともに、都度学校長のビジョンを明確に示しつつ、円滑な学校運営の推進を図る。<br>②教職員間で「認め合い、支え合い、助け合い」の意識のもと、組織を超えたサポート体制がとれるよう意識醸成を図り、温かく風通しの良い職場環境をめざす。<br>③支援教育の視点を取り入れた授業づくり、コミュニケーションの構築等、取組みの推進を図る。相手が大人でも子どもでもまずは安心できる言葉かけやフォローに努めながら、必要な指導を行う意識を確立させたい。 | ①学校教育自己診断等　教職員アンケート<br>Ａ　「学校長の示すビジョンが明確であるか」(R3/100%)<br>Ｂ　「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか」(R3/100%)<br>Ｃ　「学校運営の状況や課題を全教職の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか」(R3/100%)<br>②学校教育自己診断等　教職員アンケート<br>Ａ　「学校は楽しい」(R3/97%)<br>Ｂ　「認め合い、支え合い、助け合う温かい職場環境の雰囲気がありますか」(R3/95%)<br>③学校教育自己診断等　教職員アンケート<br>Ａ（教）「特別支援教育について理解し、授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫を行いましたか」(R3/100%)<br>Ｂ（児）「先生はあなたの良いところを認めてくれると思いますか」(R3/89%) |

**Ｂ　目標実現に向けた取組み**

| 項目 | 達成基準 | 結果 | 評価 |
|---|---|---|---|
| ①学校長のビジョンを踏まえた円滑な学校運営の推進 | ①Ａ　80%以上<br>①Ｂ　96%以上<br>①Ｃ　92%以上<br>※肯定回答 | ①Ａ　100%〇<br>①Ｂ　100%〇<br>①Ｃ　100%〇<br>※肯定回答 | 達成している。<br>校長のビジョンは、教職員アンケート結果から「明確である」の最肯定回答も大きく上昇した。今後は課題の全体共有の後の取組みといて、課題に正対した取組みが展開できるよう各部会での取組み充実に期待したい。そのためにも、今年度は数回しか実施できなかった運営会議をしっかりと開催していきたい。 |
| ②認め合い、支え合い、助け合う温かい職場環境づくり | ②Ａ　78%以上<br>②Ｂ　80%以上<br>※肯定回答 | ①Ａ　93%〇<br>②Ｂ 100%〇<br>※肯定回答 | 達成している。<br>教職員の管理職や同僚からの支援についても、高い評価が得られた。他のアンケート結果からも教職員間のサポートの輪や温かい雰囲気もできていると自負している。今年度は年度当初からの欠員や年度途中から病休等により、教職員がそろわなかった。このことから、学校運営にあたり、教職員には大きな負 |

（様式２）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 担となった。そのなか、この結果が出たことは嬉しい限りであり、次年度は欠員や病休等なく、安定した学校運営に努めたい。 |
| ③支援教育の視点を取り入れた取組み及び関わりの推進 | ③Ａ　90%以上<br>③Ｂ　90%以上<br>※肯定回答 | ③Ａ 100%〇<br>③Ｂ　83%△<br>※肯定回答 | 概ね達成している。<br>通常の学級に在籍する発達障がいの可能性がある児童の実情など多様な子どもたちの実態を踏まえると、今後の学校教育における指導にはこの意識が不可欠と捉えている。児童の実態を的確に把握し、課題や特性に応じた対応が求められる。今後も、教科の研究と並行して、この点に関する教職員のスキル向上に努める。 |

| **目標設定区分３　『人の管理・育成』** | |
|---|---|
| **Ａ　今年度の成果目標** | **達成基準（各種調査、アンケート等）** |
| 教職員の資質向上とキャリアステージに応じた人材育成に重点を置く。<br>①教職員の人権意識の醸成や資質向上を図り、児童や保護者、地域から信頼される組織化された教職員集団をめざす。<br>②次期管理職候補の１人以上の推薦をめざすとともに、学校教育活動全体の向上を図るべくミドルリーダーの育成に注力する。<br>③教職員の働き方改革も踏まえ、各取組みや会議等がより効果的かつ効率的に進むよう、組織化された会議の運営を模索する。 | ①学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート<br>Ａ（保）「学校へ行くのを楽しみにしている」(R3/83%)<br>Ｂ（保）「学校はお子さまのことについて、適切に相談に応じている」(R3/90%)<br>Ｃ（児）「学校は楽しい」(R3/81%)<br>Ｄ（児）「先生は困ったときに相談にのってくれる」(R3/79%)<br>②次期管理職候補、首席及び指導教諭等ミドルリーダーに位置する受験者の推薦（(R 元、R2/0 人、R3/2 人）<br>③学校教育自己診断等　教職員アンケート<br>Ａ（教）教職員の時間外勤務実態（R3/平均 24.5H/月）<br>Ｂ（教）「各会議の運営では、案件の整理などにより時間退縮もでき、効率的に実施することができた」(R3/50%) |

**Ｂ　目標実現に向けた取組み**

| 項目 | 達成基準 | 結果 | 評価 |
|---|---|---|---|
| ①児童や保護者、地域から信頼される教職員 | ①Ａ　80%以上<br>①Ｂ　80%以上<br>①Ｃ　80%以上<br>①Ｄ　80%以上<br>※肯定回答 | ①Ａ　83%〇<br>①Ｂ　87%〇<br>①Ｃ　80%〇<br>①Ｄ　80%〇 | 達成している。<br>この項目に関して達成できたことは、常々管理職から児童に寄り添った対応を求めていることを踏まえると、大きな意義があると考える。教職員の服務や不祥事防止については、職員会議や校長通信「ＴＥＡＭ★田原小」に盛り込むなど、日頃から啓発の成果とともに、教員の欠員に加え、校内適応指導教室対応や休んだ教員の補欠対応を「同僚性」を合言葉にみんなでシェアして乗り越えたことも |

（様式２）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | あり、昨年度以上に高め合うことができたと考える。今後はさらに情報発信に努めたい。 |
| ②次期管理職候補及びミドルリーダーの推薦 | 選考等受験者の推薦 | 推薦〇 | 達成している。<br>次年度は、次期管理職候補者の育成のために、ミドルリーダーに明確な役割を持たせるなどしてその意識向上に努める方針である。 |
| ③教職員の働き方改革 | ③Ａ　22H/月以内<br>③Ｂ　60%以上<br>※肯定回答 | ③Ａ　28H/月△<br>※５～２月<br>③Ｂ　71%〇 | 達成には至っていない。<br>本校教職員の時間外勤務の実績は、概ね良好であるが、一部で欠員等の事情により、管理職を含めた他の教職員が補欠や後任の担任として学級にはいるなどイレギュラーな対応が多くあり、教職員に負担をかけてしまったことが大きな要因と考えている。また、校務分掌等がうまく機能しなかった部会もあり、次年度は改めて組織体制の構築を図りたい。 |

**目標設定区分４　『地域連携と渉外』**

| Ａ　今年度の成果目標 | 達成基準（各種調査、アンケート等） |
|---|---|
| こ小中連携・一貫教育を基軸とし、地域コミュニティづくりの推進を図る。<br>①学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の研究及び周知の充実を図り、今年度途中からの導入をめざす。<br>②田原地区のこ小中連携・一貫教育の取組みのより一層の充実を図るとともに、ＰＴＡ活動や田原地区教育推進協議会と連携した取組みを通して、家庭教育支援の充実に努める。<br>③令和５年度に１５０周年を迎えるにあたり、記念事業開催に向けた準備を行う。 | ①田原中学校と連携し、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）について、学校だよりや各会議において、保護者や地域への発信を行い、学校運営協議会委員の選出を行う。<br>②学校自己診断等　児童保護者教職員アンケート<br>Ａ（保）（児）（教）「中学校や地域、ＰＴＡとの連携」に関する質問（R3/保 68%、児 82%、教 87%）<br>③ＰＴＡ等と連携し、今年度は準備委員会の立ち上げ及び議論を経て、年度内に実行委員会の立ち上げを行い、事業等に関する検討を進める |

**Ｂ　目標実現に向けた取組み**

| 項目 | 達成基準 | 結果 | 評価 |
|---|---|---|---|
| ①学校運営協議会制度（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙ）の導入 | 学校だより発行３回以上 | 学校だより発行<br>ＣＳ関係記事<br>３回〇 | 達成できた。<br>コミュニティ・スクールについては、学校だよりの連続掲載を継続。学校運営協議会会議後には会議での検討内容等を紹介し、広く啓発できたと考えている。 |
| ②田原地区のこ小中連携・一貫教育の取組み | ②Ａ保 70%以上<br>児 80%以上 | ②Ａ児　87%〇<br>保　87%〇 | 達成できた。<br>依然としてコロナ禍ではあるが、学校行事や |

（様式２）

| | | | |
|---|---|---|---|
| の充実 | 教 90%以上<br>※肯定回答 | 教　92%〇<br>※肯定回答 | 地域行事が少しずつ実施可能となり、児童や保護者の意識も戻ってきたように思う。こ小中の取組みでは設定した「めざす子ども像」に基づき、各施設の取組み紹介等をおこなうことで、より一層こ小中の取組み推進が図られた。保護者への発信にも努めたこともあり、保護者の意識も回復してきたと考える。 |
| ③１５０周年行事準備委員会での議論を経て実行委員会の立ち上げ | ③実行委員長の選任と委員選出及び議論の開始 | ③<br>実行委員長選任〇<br>委員選出〇<br>議論の開始〇 | 達成できた。<br>夏には準備委員会から実行委員会に切り替わり、過去のＰＴＡ会長や実行委員メンバーを中心とした委員の選出や実行委員長の選任、さらに各部会の設立など大きく進展した。<br>次年度は式典等の行事に向けて、さらに盛り上げるため、児童が主体的に参画できるような取組みを進めたい。児童会や教職員の役割分担も明確にして、児童も教職員も充実感や達成感を感じられる取組みに繋げたい。 |

## ５　総合評価と次年度に向けて

今年度は個別の結果としては、改善されたり向上したりしたものがあるが、目標値達成を含め、総合的には実績として達成できたとは言えない一年となった。

年度当初からの欠員を抱えての学校運営となったこと、年度途中に２人の学級担任が病休や休職により、長期離脱することとなり、担任外の教員を担任として充てることとなった。このことから空き時間の教職員のみならず、管理職も授業を担当したり、児童の指導に当たることが増えたりするなど、学校全体に余裕がなくなったことが要因として挙げられる。やはり安定した学校運営ができ、質の高い教育を提供するためには、教職員の心と時間のゆとりが必要だと感じている。

また、児童の安心安全や常に児童の気持ちに寄り添う対応を意識してきたが、この点については、教職員の意識の高まりを感じている。児童が教室や学校のなかに安心できる場所があり、仲間とのかかわりのなか、心も体も安心した状態で学習やコミュニケーションがとれる環境づくりに努めてきたが、その点も改善されてきていると感じている。

一方で、詳細を分析する中で、依然として体力向上や家庭学習等においての課題が見受けられる。さらに PTA や地域諸団体と連携を図り、家庭教育力の向上に努める必要がある。ICT 機器のさらなる活用も課題の一つである。ＳＡＭＲモデルの次なるステップを意識して取組みを進めたい。

また、児童の状況を踏まえると、教職員のカウンセリングマインド力の向上等さらなる専門性の向上に努める必要があり、併せて、次年度の職員体制を踏まえて、不登校傾向児童の対応に係る校内体制を検討しなければならない。

今年度、数値として達成できなかった項目については、教職員でさらに検証を行い、次年度に繋げたいと考えている。次年度は本校創立１５０周年の記念の一年となる。記念すべき年度にふさわしい安心安全で児童、保護者、教職員の笑顔が絶えない学校づくりに努めてまいります。